

ポラン通信

vol.12

犬猫の**歯科治療**特集！！

2024年2月

こんにちは。とにもかくにも当院は歯科を専門的に
行なっております。ほんの少しだけですが歯科情報公
開いたします。

突然の病院あるある4コマ

歯科専用Instagram開設!



ありがたいことに、気づいたらフォロワーさんが1400人を超えた当院Instagramアカウント。ほとんどの方が保護した可愛いねこちゃんやトリミングの可愛いわんちゃんのお写真が目当てかと思われれます。もちろん譲渡を促すためにも喜ばしいことですが、メインの動物病院での内容がおそろかに・・・

というわけで、「いぬとねこの歯科」として当院のアカウントを分けることにしました！正直な話、設備では練馬区が一番整っている自信があります！色々な症例、知識などを発信していきますのでHPの歯科のページともどもよろしくお願いいたします！！

いぬとねこの歯科→

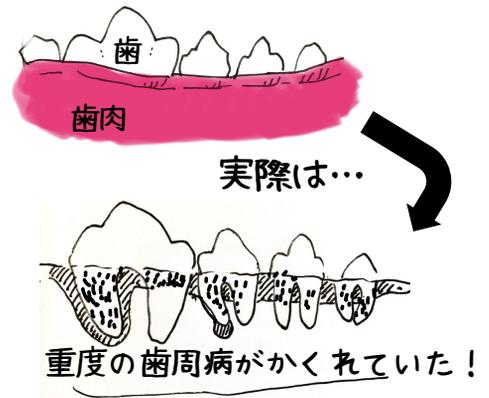


★最新保護猫情報やお知らせは、従来のInstagramで随時更新中です！→→→→

3歳以上の犬猫の80%は歯周トラブル！！

見た目綺麗そうでも

非常によく言われる事柄ですが、犬猫は若くてもすでに歯周疾患を起こしていることがあります。そのため「歯を残してあげたい」とお考えの方は「今すぐ」デンタルケアを始めする必要があります。まずは受診してください。すでに歯周疾患がある場合は、ご自宅



で 歯磨きやサプリなどでケアをされる前に、治療が必要です。歯の半分は顎の骨におおわれており肉眼では異常はわかりにくいです。全身麻酔をかけて調べると「これでよく食べていたね？」と私も驚く所見がたくさんあります。治療→自宅でのホームデンタルケアの順で！

歯石除去はいつから？

アメリカのガイドラインでは1歳から1年に1回の全身麻酔での歯石除去が推奨されており、ここで注意が必要なのは、海外では治療時に「歯科専用レントゲンでの撮影が必須」とされているところです。日本では残念ながら歯科専用レントゲンの機械を所有している動物病院は30%に満たないとされており、大切なのは歯肉に覆われた部分の評価なので、レントゲンで評価してから治療を行わないと全身麻酔をせっかくかけた意味がありません。当院では歯科レントゲンを毎回行い異常や前回との比較を行い、記録しております。 参照 <https://www.aaha.org/aaha-guidelines/dental-care/dental-care-home/>

全身麻酔は正しくおそれる。

歯周ポケットを探ったり歯科レントゲン撮影には全身麻酔が必要です。無理やり起きている状態で行う「無麻酔歯石除去」は犬猫に恐怖を与えるばかりか十分な治療が行えておらずデメリットしかありません。もちろん全身麻酔は100%安全とは言い切ることができませんが、メリットデメリットを比較し飼い主さんと相談しながら行います。麻酔を恐れ高齢になり歯が痛みが限界になってから治療を行うのが、一番リスクが高いです。早めの対応をすることが、治療時間も短くすみ、犬猫のためにもなります。

当院では最高齢で犬17歳、猫20歳での麻酔下歯科治療の実績があります。ご相談ください。当院ではセカンドオピニオン・紹介・転院問わず歯科をお受けしております。